

前川あやこ

無所属 鎌倉市議会議員5期

2005年初当選 5期目 夢みらい鎌倉

議会運営委員会副委員長

教育福祉常任委員会委員

レポート

NO.71

2021.7発行

2021年6月議会からのご報告

- 1 交通不便地域に「足」の確保
- 2 次世代救急医療体制の実現
- 3 がん治療、ウィッグ購入支援
- 4 鎌倉漁港、令和8年度着工予定



討議資料



さる4月25日の鎌倉市議会選挙では、2,595名の方々のご支援をいただき、5期目を迎えることとなりました。常に初心に立ち返って働きたいと思えます。写真は新しい会派「夢みらい鎌倉」のメンバー。左から中里成光議員、私、池田実議員、日向慎吾議員（今期副議長）の4名。よろしくお願いたします（2021.6.16）。

5期目に入った最初の一般質問

この16年間、様々な課題について取り上げ質問、提案してまいりました。

実現したことや改善されたことも沢山ありますが、依然として進展がみられない、あるいは遅々たる歩みでしかない課題も残っています。

会派「夢みらい鎌倉」の仲間たちと共に、また新たな気持ちで諸課題と向き合い、住みよい鎌倉を目指して取り組んで参ります。

6月議会一般質問項目

1 交通不便地域における「足」の確保

ミニバス、ワゴン車、オンデマンドモビリティなどすでに複数回の実験を行っている。他市の例も参考に早期実施をできないか。

2 次世代救急医療体制の早期実現を

コロナ感染下にもかかわらず、交通量は減らない。救急車利用者が迅速な治療を受けるために、次世代救急医療体制構築を望む。

3 がん治療負担軽減にウィッグ等購入支援を

国民の2人に1人が、がんになる。抗がん剤や放射線治療によって脱毛に悩まされる。ウィッグ等の購入支援で生活の質の向上を。

4 進みだした漁業支援施設の整備

私が最初に質問してから12年、その前から考えれば50年かかっているこの問題。令和8年度から着工、という所まで来た。



ブログ「いやさか通信」から

釈迦堂口の保存工事



浄明寺から大町へ抜ける道だった釈迦堂の切り通し。崩落の危険から通行止めになってから約40年。保存に向けての工事が来年から始まる予定（6/20）。

巡礼古道をめぐる



宅間谷戸の東側の尾根にあるのが、杉本観音から岩殿寺に向かう巡礼古道。途中磨崖仏や庚申塚を見ながらの山道です。わが子の子供時代の遊び場（6/20）。

ワクチン予約サポート



接種の予約をサポートする事業が市内24ヵ所で行われた。浄明寺町内会館でも町内の方々で支援が行われ、2日間で295人の方々で予約完了（6/17）。

宅間谷戸の梅雨入り



関東地方は14日梅雨入り。宅間川沿いに紫陽花が紫の花をつけ、ヤマユリの白い花も咲き始めました。この季節ならではの楽しみです（6/15）。

十二所、吉沢川の刈払い



県道から「御坊橋」までの川底に雑木が茂っていましたが、市の管理地とわかり伐採が完了しました。雨の季節が来る前に終わって良かった（6/14）。

池田小事件から20年



2001年6月8日、大阪教育大付属池田小学校で児童8人が犠牲となった。私が市議会議員になったきっかけであり、子どもの安全は永遠のテーマ（6/8）。

前川あやこのホームページからブログ「いやさか通信」をご覧ください。
<http://www.maekawa-ayako.net>

前川あやこの活動は
ブログ「いやさか通信」、Facebook
Instagramをご覧ください。



いやさか通信



Facebook



Instagram

【発行】前川あやこ 【住所】〒248-0003 鎌倉市浄明寺2-10-8
【TEL/FAX】0467-23-0964 【E-mail】info@maekawa-ayako.net
【前川あやこ履歴】1960年鎌倉市二階堂生まれ、聖心の園幼稚園、第二小・中学校、聖園女学院、日本大学。

交通不便地域における「足」の確保

平成20年3月、大町地域にミニバスを回しての実証実験では、利用人数が少なく、実施にいたりませんでした。

◆スマホ等によるアプリ利用で利用者増

この1月に二階堂・浄明寺地区でのワゴン車、オンデマンドモビリティの実証実験では、利用者420人の内、電話3割、アプリ利用が7割。高齢の方でもアプリを利用する方が多いのに驚きましたが、その利便性が利用者を増やし、満足度も9割にのぼりました。



◆再度の実証実験よりも早期の実施を

料金の設定や時間帯などの問題があり、再度の実証実験を今年度中(来年の1月頃)、本格実施は来年度からと計画されています。しかし、他市の実証実験なども参考にして、一刻も早い本格実施、来年度の早期に実施してくれるよう要望しています。

◆他地域の要望について

今回実施地域以外にも、今泉台、住友分譲地常盤、新鎌倉山などでも要望が出ています。高齢者にとって移手段の確保は喫緊の課題です。活動範囲も広がり、健康な生活が確保されます。さらに実施されれば、幅広い年齢層の利用も考えられます。

デジタル・デバイドの解消に向けて

上記のオンラインモビリティ実証実験、今度のワクチン接種申し込みなど、デジタル機器を利用することで生活がより便利になっている。玉縄台、西鎌倉、今泉台などでは、地域で利用方法を教え合うなどの取り組みが行われている。スマホやパソコン等のデジタル機器になじんでもらえるよう、市は取り組みを急いでいる。

次世代救急医療体制の早期実現を

鎌倉市では交通渋滞による救急活動の遅延を回避すべく、高機能消防指令センターの情報やGPS活用によってより早い現場到着、あるいは消防車を先行させるなどの対策を行っています。さらにICTを活用した取り組みを進めています。

◆次世代救急医療体制とは

これまでは搬送先決定のため患者情報を電話で説明していたが、患者情報を自動でデータ化し、患部の写真やバイタルなどのデータを同時に病院へ送信することが可能になります。これにより病院側は迅速に判断でき、患者と病院のマッチングの迅速化、病院・救急隊員の省力化が図られ、早く、正確な救急医療体制につながります。

今は実証実験の準備を進めており、夏頃からスタート。令和3年度中に効果検証まで実施する予定です。

がん治療、ウィッグ購入支援を望む

鎌倉市のがん患者数は平成28年で1,647人。がん治療は多くの身体的負担や苦痛を伴うとともに、術後の脱毛については多くの方が悩んでいます。

外見上の身体状況の変化を補うため、脱毛に対応したウィッグや乳がん術後の補正下着などについて、1万円から3万円程度の金額を助成している自治体は全国で180を超えます。

外見上の悩みを和らげ経済的負担の軽減はQOL向上や就労、社会参加を応援する取り組みとしてぜひ実現したいことです。

この質問に市長は「検討する」と答えました。

進みだした漁業支援施設の整備

昨年度の坂ノ下地区における「鎌倉地域漁業支援施設整備事業」は、地域・関係団体への説明および調整を行うための説明会を開催。2回開催し、またその後「出前での説明会」も1回開催し、市民の合意形成を行うことができました。

◆令和8年度の着工に向けて

今後の進行予定は、今年度に「漁港区域の指定」の準備に入り、これに2年かかる予定。令和5年度から土質調査や深淺測量、用地・斜路等の設計をへて、令和8年度には工事着工の運びとなり、令和13年度までの5年間で工事期間と考えられています。

鎌倉地域の漁業支援施設建設は、半世紀を超える願いでした。漁師さん達の労働環境改善だけでなく、鎌倉の地場産業の発展に寄与します。また近年、異常気象のためか鎌倉の海は台風による被害を大きく受けようになり、同時に大規模災害に備えて、港という物資の玄関口はぜひ必要です。

10年後には鎌倉地域に漁業支援施設が実現する、鎌倉の安全と発展のために、大きな1歩です。

漁業支援施設の配置・規模の検討



説明会資料より